

事項	小麦品種「ネバリゴシ」の開花期尿素葉面散布は子実タンパク質含有率の適正化と収量及び容積重の向上に効果がある		
ねらい	<p>「ネバリゴシ」のような日本めん用小麦では実需者が求める子実タンパク質含有率9.7～11.3%、容積重840g/L以上等の品質基準が策定されている。</p> <p>小麦品種「ネバリゴシ」について穂揃期の生育診断に基づく開花期尿素葉面散布技術は、子実タンパク質含有率の適正化に加え、収量(精子実重)と容積重の向上効果があることを明らかにしたので参考に供する。</p>		
指導参考内容	<p>1 尿素葉面散布法</p> <p>(1) 生育診断時期：穂揃期</p> <p>(2) 調査項目と診断法</p> $\text{生育診断値} = \frac{\text{穂揃期の草丈(cm)} \times \text{穂揃期の葉色値(上位2葉目をSPAD-502で測定)}}{\text{穂数(本/m}^2\text{)}}$ <p>(3) 生育診断結果と追肥対応</p> <p>ア 診断値が5.5～7.5未満の場合、追肥窒素総量は4kg/10aとする。 [追肥方法] 尿素4%液(110L/10a)を開花期と開花期7日後頃に葉面散布。 (約2ポイントの子実タンパク質含有率の向上が期待できる。)</p> <p>イ 診断値が7.5～9.5未満の場合、追肥窒素総量は2kg/10aとする。 [追肥方法] 尿素2%液を(110L/10a)を開花期と開花期7日後頃に葉面散布。 (約1ポイントの子実タンパク質含有率の向上が期待できる。)</p> <p>ウ 診断値が9.5以上の場合。 穂揃期以降の窒素追肥は行わない。</p> <p>2 尿素葉面散布が収量と容積重に及ぼす影響</p> <p>精子実重は追肥により向上するが、追肥窒素総量が4kg/10aの場合は穂数約400本以上で向上する。また、容積重も追肥により向上する。</p>		
期待される効果	「ネバリゴシ」の子実タンパク質含有率の適正化による品質安定化。		
利用上の注意事項	2～6%の尿素葉面散布により、葉の褐点や葉先枯れが発生する可能性があるが、収量及び品質への影響はみられていない。		
問い合わせ先(電話番号)	農林総合研究所 生産環境部 (0172-52-4391)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成20～24年度 試験成績概要集(農林総合研究所)		

【根拠となった主要な試験結果】

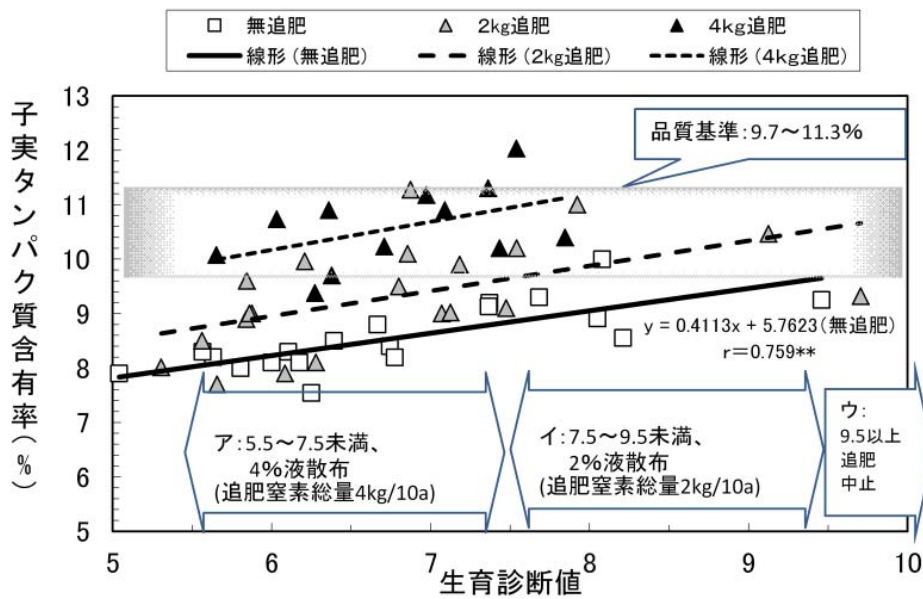


図1 穂揃期の生育診断値と追肥対応 (平成21、22、24年、青森農林総研)

- (注) 1 図中の回帰式、相関係数は無追肥の場合。有意性水準は5%。
 2 子実タンパク質含有率はケルダール法により得られた数値に5.70を乗じた。
 3 生育診断値(穂揃期)：草丈×葉色値/穂数 (cm*SPAD/本(/m²))

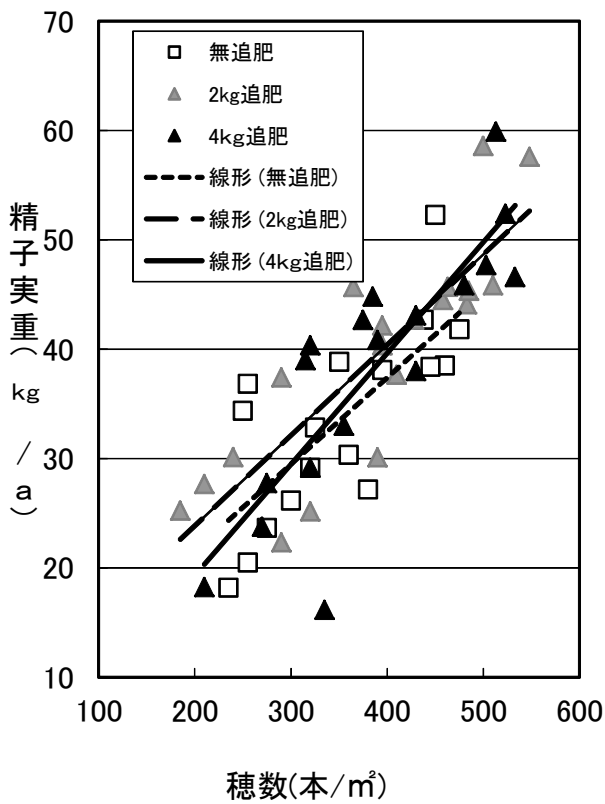


図2 穂数と精子実重
(平成22~24年、青森農林総研)

(注) 篩目は2.2mm。

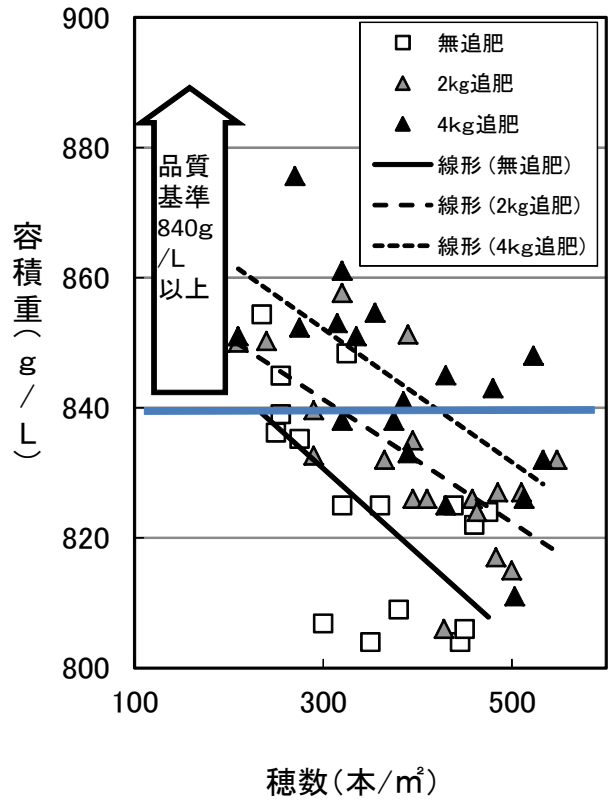


図3 穂数と容積重
(平成22~24年、青森農林総研)